

# 須坂新校施設整備事業基本計画策定支援業務委託プロポーザル

## 審査講評

### 1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する6名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会（以下「委員会」という。）により、実施要領を策定の上、一次審査及び二次審査を行い、慎重かつ厳正に審査した。

### 2 選定結果

委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体 代表構成員 (株)コンテンポラリーズ 構成員 (株)第一設計
候補者（次点）	イシバシナガラ・PHa 設計共同体 代表構成員 (株)イシバシナガラアーキテクト 構成員 (株)PERSIMMON HILLS architects
準候補者（次々点）	該当なし

### 3 審査経過

#### (1) 第1回審査委員会

日程： 令和5年6月26日（月）

場所： オンライン会議

内容： 実施要領等・審査方法等の協議

委員長の選出、募集要領における参加資格要件・実施要領等の協議

#### (2) 第2回審査委員会（一次審査）

日程： 令和5年9月24日（日）

場所： 都道府県会館（東京都千代田区）

概要： 二次審査対象者の選定等

最初に、提案書等の提出のあった12者について、参加資格を有すること及び提出書類について実施要領に規定する記載要領に従って作成されていることなど失格基準に抵触していないこと、更には委員への事前説明その他接触などがなく留意事項における禁止事項に抵触していないことを確認した。

次に、審査の第一段階として提案書等をもとに各委員が5票程度ずつ予備投票を行い、二次審査対象者の選定に向けた議論の対象者を選定した。【表1】

第二段階として、第一段階における予備投票の結果、投票数の少ない者から順番に各委員が提案書等に対する印象・専門的知見からの講評を交えた意見交換を行い、二次審査対象者として5者を選定した。【表2】

【表1】一次審査 予備投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
6票	1者	7※
5票	3者	3※、6※、12※
4票	1者	11※
3票	1者	1※
1票	1者	8※
0票	5者	2、4、5、9、10
計	12者	

注1) ※は第二段階へ進んだ者 注2) 審査 No.は提出書類受付順

【表2】一次審査 投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
5票	2者	3※、6※
3票	2者	7※、11※
2票	1者	12※
0票	2者	1、8
計	7者	

注3) ※は二次審査対象者

#### (4) 第3回審査委員会（二次審査）

日程： 令和5年11月5日（日）

場所： 須坂創成高等学校（長野県須坂市）

概要： 実施体制及び提案書について、一者当たり15分の公開プレゼンテーションを5者続けて行った。続けて5者一斉に75分の公開ヒアリングを行った。

ヒアリング終了後、提案書並びにプレゼンテーション及びヒアリングなどを踏まえ、非公開にて次のとおり審議を行った。各委員が専門的知見に基づき、NSDプロジェクトの理念や学びに対する理解、設計の技術力などによる総合的に評価し、各者の作り出すバリューや課題などについて議論した。その上で、各委員が最大2票の投票を行った。【表3】

次いで、投票結果を踏まえ、最適候補者等の選定について議論したところ、投票結果に異論はなく、委員会の総意として、最適候補者にコンテンポラリーズ+第一設計共同企業体選定した。以降、候補者（次点）にイシバシナガラ・PHa設計共同

体を選定した。準候補者（次々点）は該当なしとした。

【表3】二次審査 投票結果

提案者名（発表順）		投票数
1	PRINT AND BUILD・miCo.共同企業体	1
2	(株)カワグチテイ建築計画	1
3	コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体	6
4	(株)トミトアーキテクチャ	1
5	イシバシナガラ・PHa 設計共同体	3

## 4 講評

### (1) 全体講評

須坂市の中心地にあり、北アルプス連峰や北信五岳を仰ぎ見ることができる落ち着いた環境の下、須坂東高校と須坂創成高校を再編統合する本事業に対して提出された 12 者の提案は、どれも熟慮された提案であった。NSD の理念に共鳴し、多くの時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いた方々に感謝の意を表したい。

本事業は、「地域の方々と、地域の未来を共に創るコミュニティデザインハイスクール」という特徴的な学校を目指し、従来型の「学力」重視ではなく、地域と協働した学びをとおしてコミュニケーション力や課題解決力を育成し、生まれ育った地域を支えていけるような人材の育成を目指す須坂新校の学校づくりの一環である。また、本プロポーザルにより選ばれた設計者と、長野県が目指す「新たな学び」を実現する学習空間、新校が目指す「地域との協働の中で進められる学び」を実現する学習空間となるよう、学びと空間の環境整備を基本計画から一体となって実現する事業である。

二次審査に残った 5 者の提案は、新校が目指す学びの実現や地域における学校の在り方といった課題に対して真摯に向き合った優れた提案であった。それらからは、学校施設の整備という外形を超えて、地域づくりの視点から「教育と建築の一体改革」を実現しなければいけないという気概が感じられた。最終的には、「地域の方々と、地域の未来を共に創るコミュニティデザインハイスクール」を目指すにあたり、学生が地域をフィールドに活躍する可能性、学科間・学年間融合についての今後の展開に対する柔軟性に満ちた提案を行ったコンテナポリリーズ+第一設計共同企業体を最適候補者に選定した。

ここからが本当のスタートである。最適候補者には、学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったから素晴らしい学校ができたと言え、胸をはって言える学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待している。

### (2) 個別講評（二次審査対象者）

#### コンテナポリリーズ+第一設計共同企業体《最適候補者》

新築する教室群を敷地東側に配置し、長野の厳しい気候に対応するとともに、FLA によって全体を統合する魅力的な提案であった。4つの科ごとに整理された平面計画を有しているが、この構成は学年ごとにも展開が可能な柔軟性を備えており、今後、学校関係者との打ち合わせにより計画を深化させていく際にも魅力を維持することが出来る提案であった。

また、質疑応答においても、建築デザインに軸足を置いた真摯な態度を保持し続け、技術的にも難易度の高い本事業のパートナーに相応しい印象を受けた。

その一方で、大きなスケールの FLA はその運営のための充実したオペレーションを必要とすること、起伏のある敷地東側に集中している建物配置が物理的に整合するか検証が必要であるなど、課題も指摘された。しかしながら、実現性の高い提案を提示した能力は、最適候補者に相応しいものであると判断した。

### イシバシナガラ・PHa 設計共同体《候補者（次点）》

農業科を学校の正面である西側に配置し、庇や軒が地域との連携を担うとともに生徒の心に残る魅力的な提案であった。3年生になると選択授業が増えHR教室での活動が減ることから、1、2年生棟と、3年生棟に分けるという生徒の動きに即した実現性の高い提案は、審査委員の評価を得ていた。また、貪欲に成長しようと語り掛ける質疑応答も好感があり、期待できるチームであった。

一方で、学科重視を前提としたこのチームの構想力が、学年のまとまりを求める方向に運営側が変化した場合、どこまで保たれ得るか、提案内のプールを移設にどこまで必然性と実現性があるか、などについて懸念等が示され、惜しくも次点に留まることになった。

(以下、発表順)

### PRINT AND BUILD・miCo.共同企業体

多様な学びに対応した「ホームタウン」を学科の中心に配置し学年間の交流を促し、学校全体を「クリエイティブサークル」でつなぐなど、本質的な課題について深く検討された優れた提案であった。また、プレゼンテーションやヒアリングでの明快な受け答えからは、提案者の提案構築力の高さが評価された。

一方で、学科ごとのまとまりが強くなりすぎ他学科との交流が減ってしまわないか、学年ごとの融合に対する柔軟さ、仮設校舎をほぼ不要とする建替計画案の実現性の確からしさなどについて懸念が示され、高い評価を得ることはできなかった。

### (株)カワグチテイ建築計画

ゾーニングが明快であり、2層の「ラーニンググループ」によりそれぞれのゾーンをつなぎ、学年や学科、地域等との交わりをつくるなど、丁寧な平面構成で魅力的な提案であった。また、インタビューにおいてはチームとしての総合力の高さが感じられた。

一方で、FLAの配置から新たな学びを実現するための多様な学習空間のイメージが見えにくいという指摘や、実際に活用する際に音のコントロールが課題になるのではないかという懸念が示された。また、空間的な余地が少なく、生徒の居場所が十分でないのではないかという懸念もあり、高い評価を得ることができなかった。

### (株)トミトアーキテクチャ

地域の活動拠点となる「ラーニングパーク」という明快なコンセプトのもと、1階部分で展開される様々な活動や学びの風景が魅力的な提案であった。ICTを活用した新たな学びについても深く理解しているとともに、防災についての検討も好感を持って受け止められた。また、ヒアリングの受け答えからも、若いチームの意欲と熱意が感じられた。

一方で、提案内容が1階部分に凝縮されており、他の空間における提示がやや淡泊であったことが指摘された。また、生徒の日常的な活動において、1階部分の積極的な運用が実際にどの程度できるかという懸念も示され、高い評価を得ることはできなかった。

## 5 プロポーザル概要

### (1) 経過

令和5年6月26日	第1回審査委員会	
令和5年7月24日	公告	
令和5年8月1日	現地説明会	
令和5年8月10日	参加表明書の提出期限	15者提出
令和5年9月5日	一次審査書類の提出期限	12者提出
令和5年9月24日	第2回審査委員会 (一次審査)	二次審査対象者の選定(5者)
令和5年9月28日	一次審査結果通知	
令和5年10月23日	二次審査書類の提出期限	5者提出
令和5年11月5日	第3回審査委員会 (二次審査)	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

### (2) 審査委員会等構成

審査委員会(五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属等	分野
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ・代表取締役	建築
委員	垣野 義典	東京理科大学・教授	建築・教育
委員	高橋 純	東京学芸大学・教授	教育
委員	寺内 美紀子	信州大学・教授	建築
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所・代表取締役	建築
委員	武者 忠彦	立教大学・教授	地域

アドバイザー

氏名	所属等	分野
小野田 泰明	東北大学・教授	都市・建築学